

## 社会法学（浅倉）

社会法学は、契約の自由や私的所有権の絶対という「市民法の原理」を修正する意味をもって登場した法学の分野である。社会法学を深く学ぶことによって、抽象的で理念的な市民法原理の限界性を知り、それを修正し実質化するために、社会に生きている具体的な人間にとって必要な法原理について、一般的な素養を身につけることができる。労働法の学習では、実質的には対等ではない労使間での権利・義務を根拠づけるさまざまなルールや、労働条件を決定するシステムを学び、働く人々が健康的で人間らしい生活を送るための法のあり方について理解する。社会保障法の学習では、現実の社会で、貧困や生活上の危険に直面する人々の生存や尊厳の保障のあり方を考える。経済法の学習では、自由主義経済の商品・サービスの取引分野で、事業者が行う経済活動に国が介入するときの根拠となる各種の法の仕組みについて、理解を深めることができる。